

第7回(追加)世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議

議事録

日時：令和5年11月30日(木) 19時00分～21時00分

場所：三軒茶屋分庁舎3階 教室

■ 出席者

〈委員〉

長山会長、栗山委員、竹内委員、見城委員、中山(耕)委員、松原委員、兒玉委員、大石委員、田中委員、中山(綾)委員、吉田(亮)委員、大藤委員、吉田(凌)委員

〈世田谷区〉

後藤経済産業部長、納屋産業連携交流推進課長、高井商業課長、
荒井工業・ものづくり・雇用促進課長、黒岩都市農業課長、平原消費生活課長

1. 開会

【納屋産業連携交流推進課長】

定刻になりましたので、ただいまより第7回追加開催の世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議を開催いたします。

はじめに、今週月曜日と立て続けに会議を設定させていただいたにも関わらず、本日も多くの委員の方にご参加いただき、有難うございます。改めてお礼申し上げます。

本日は、古谷委員、千葉委員、城田委員、市川委員が欠席で、中山(綾)委員がオンライン参加となっております。全体の1/2以上の出席をいただいているということで、会議規則に基づき、会議を開催させていただきます。

次に、資料でございますが、月曜日と同じものとさせていただきたいと思っておりますので、ご持参いただいた方はそちらを、お持ちでない方、また、部分的に欠けているという方は事務局までお申し付けください。

なお、前回資料に加えて、参考メモということで、1枚紙をお配りさせていただいておりますので、ご確認ください。

【長山会長】

皆さん、こんばんは。

本日は、月曜日に引き続き、急遽、会議を開催することとなりましたが、多くの委員の方にご参加をいただき、誠にありがとうございます。

本日は、前回会議からの継続として、持続可能な地域経済の実現に向けた方向性について議論していきたいと考えております。

早速、議論に入りたいと思いますが、まずは、前回会議の振り返りということで、

事務局より、簡潔に説明をお願いします。

2. 議題

持続可能な地域経済の実現に向けた方向性等について

【納屋産業連携交流推進課長】

メモとしてお配りをしている資料についてのご説明をさせていただきます。前回の会議の振り返りと本日ご議論いただきたい内容を一枚にまとめたものでございます。

冒頭ですが、本日議論いただきたい方向性として、持続可能な地域経済の構築に向けた大きな方向性を明確に行きたいということでございます。

2点目が答申と内容が合致しているかということであったり、答申と比べた時に不足や補充、整理すべきものは何かということも議論いただきたいと思っておりますけれども、1点目の論点の議論の中で、これは兼ねるものだと思いますので、1点目のところを意識してご議論いただくとよろしいのかと思っております。

前回の議論を我々事務局なりに考えてみました。まず一番上に持続可能な地域経済というのがあり、そこに産業の活性化が真ん中にある。新たな視点というのは条例で言うと、2～4の柱ですが、そういったものも付加されると、さらにより良い持続可能性とところはできていくと理解をしております。

それで産業の活性化ということで、解決すべき問題というところに前回ご議論いただいた話で、まず1つ目がお金の問題ということでございまして、資本と書かせていただきましたけれども、お金の問題があつて、事業経営に必要なお金をどう獲得して行くかということが一つ大きな問題じゃないかという話がございました。その際に努力する事業者が報われるというか、資本を獲得できる仕組みであるべきだということであったり、個々の事業者を100%応援するというよりは、業界単位で後押しをするんじゃないかというような話があったと記憶してございます。

2つ目が人の問題ということで、この人手不足の中でどう企業活動のための人材を獲得確保していくかということが大きな問題じゃないかということで、提起されたと思っております。例えば、そういった学校を作るとか、新卒者を獲得していくとか、女性の就労を促進する、転職者やシニア層などの活用をしていくというような議論があったと思っております。

その上で、枠の外に具体的な手法の話も色々いただいて、短時間就労の環境を作るとか、就労や正社員雇用に関する価値観を変えていく必要があるんじゃないかとか、バックオフィス業務を切り出し、そこにフリーランスの方などプロ人材を活用するとか、いろいろな議論があったと思うんですけども、こういった手法とか手段を抽象化して、上にあげる感じで方向性を書いています。

3点目が消費の問題ということで、いかに域内での消費を活性化するかということで、この間はここまでの話はあまりなかったかもしれませんが、さわりだけはあったかと思っております。地域内での消費を喚起するとか、資本の問題と人の問題を解消していくことで、自然と地域に住んだり、地域で働くということが可能となり、職住近接が可能となれば消費も増えていくという話も出ていたと思っております。

また、あまりこれはこの間なかったんですけど、地域外からの消費を落としてもらう仕組み、そういったところは事務局の方で勝手ながら少し追記をさせていただきました。その手法として世田谷ペイの話であったり、先ほど申し上げた職住近接の実現というところが一つのレイヤーとして出てくるのかと思っております。

4点目が情報の問題ということで、わかりやすい情報発信、行政の情報発信が分かりにくいとか、ホームページ等含めて、非常に不親切という話もいただいたかと思っておりますので、方向性として書かせていただいたのが、情報を得たい人、得たいと思っていない方にはなかなか届かないという話の中で、得たい人が得られるような情報発信とか、ユーザーが自ら情報を得るための行動を少し後押しする部分があるのかなということで、見られるためのデザインとか、そういった専門人材の助言とか、またなんでもかんでも流すのではなく、取捨選択をして情報を流すべきというところをしながら、解決すべき問題というのを解消していくんじゃないかということでございます。

5点目が意識の問題ということで、時代変化に沿った意識改革と啓発としてございます。これも作り手の単価の問題とか色々意見がございましたが、やはりそういったところについても消費者の意識も変わっていただかなければ、なかなか消費者と生産者の関係で上手い関係ができないんじゃないかということで、こういったところも解消に向けて必要な問題じゃないかということでございます。

規制やインフラの問題ということで、ビジネスしやすい環境に少しずつでも変えていく必要があるということで、駐車禁止の話が具体例として挙がってございましたけれども、障壁となっている規制を洗い出したり、課題解決の洗い出しの会議のお話もいただきましたが、そういったことも参考にしながら、まずは洗い出しと検討をするという方向性であったり、インフラの話、Wi-Fiの話もその場で頂いたり、以前からの交通の話も頂いてございましたが、そういったところの何かしらの改善を図っていくというのは、方向性として必要なことではないかということでございます。

行政の支援体制の見直しということで、これも前回20年先を見据える必要があるというお話がございまして、これは規制とかインフラというよりは、仕組み、それを支えて動かして行くための仕組みというところだと思いますけれども、そういったところも規制やインフラの枠の中に現状は入れさせていただいたということでございます。

観点が一つ上に上がりまして、観点の枠は便宜上整理をしてみたものでございますが、うまくあんまりはまっていない面もあると思っております。ここはそこまで必要かどうかというところもありますけれども、産業の活性化のためには解決すべき問題があると、それは資本、人というように、そこを一つ飛ばしても成り立つものかなと思いつつ、考え方の何かしらの参考になるんじゃないかと思って、少し記載をさせて頂いたということでございます。説明は以上でございます。

【長山会長】

ありがとうございます。

事務局から説明のありました資料や、前回会議で配布しております資料もご参照いただき、

持続可能な地域経済の実現に向けた方向性について議論してきたいと考えております。

まずは、前回出席していた方で、改めてメモなども参考に、追加意見や補足意見、これは違うのではないかな等、いかがでしょうか。

ご意見がある方は挙手にてご発言をお願いいたします。

前回欠席された委員の方で、このような観点や課題もあるのではないかな、といったことがあれば、是非、ご意見をお願いいたします。

【吉田(凌)委員】

解決すべき問題のところですが、最近だと資本に人が含まれるみたいなこともあるので、資金の問題とするのがいいと思います。また、人に対する支援のところ、新卒者の獲得だとか、転職者の獲得ということで、入口の部分はあるのですが、退職した人や廃業された人といった出口の部分が足りないかと思ひ、どちらかという労働循環性の向上みたいな話なのかなと思ひました。最後に、情報の問題と意識の情報とありますが、この二つの違いが自分の中でよくわからなくて、ほぼ一緒なのかなと思ひたので、ビジネス環境の向上のところを規制やインフラの問題と情報の問題とまとめた方がわかりやすいかなと思ひました。

【長山会長】

それでは、事務局に回答してもらいましょう。このメモ自体は、前回の会議を踏まえて、事務局の方で取りまとめたもので、私もこれに関しては意見をしていないですし、また私が言うややこしくなることもあります。ですので、私は最後にまとめるとして、まずは事務局とラリーをしていただければと思ひます。

【納屋産業連携交流推進課長】

これについては我々の考えを入れ込みたいということでもなくて、議事録として一枚紙を作ったつもりなのでご指摘を踏まえながら、皆さんと合意が得られればと思ひます。資本の話はお聞きしていて、おっしゃるとおりだなと個人的には思ったところがございます。情報と意識のところもこれをまとめながらなかなか区分けするのは難しいと思ひながら、敢えて二つに分けているところもございますので、むしろ他の委員の方からもご意見をいただくとまとめる立場としてはありがたいなと思ひております。

【田中委員】

メモありがとうございます。ほとんど違和感はないのですけれども、吉田委員の話に乗っかってというか、割と近い所で、意識の問題のことです。私も別になっているのがいいなと思ひたのですが、この意識の問題は、結構大事なところだとは思ひのですが、あまり議論しなかつたかと思ひるところがあります。ここに入るべき意識の問題とか、これから必要な意識変容みたいところはもう少し議論を深めて追加されてもいいのではと思ひます。例えば、資本と言っても、今、人的資本経営みたいなのもかなり着目されてきていますし、それが大企業のものだけではなくて、世田谷区に多々ある中小企業の経営者の皆さんも意識

せざるをえない状況になってきている。あとはSDGs経営みたいなところで、自然災害が多発し、気候変動などの影響もすごく大きい中で、今までどおりに経営していくということが立ち行かなくなっている状況があるので、結果的に意識を変えなきゃいけないところもありますし、先んじて、それをやっていくというような、そういうきっかけになる項目であるといいかなと思います。

【納屋産業連携交流推進課長】

そのとおりだと思います。ほかの皆さんのご意見もお聞きできればなと思っています。

【長山会長】

ほかに何か違和感や齟齬があればお願いいたします。よろしければ、今度は前回欠席されていた委員の方々に、理解ができないとか、追加すべきことなど気づいたところがあればと思いますが、いかがでしょうか。

【大石委員】

情報のところに入るのかもしれないですが、デジタル化への対応ということで、AIが人に置き換わる場所がかなりあると思ってまして、持続可能な地域経済を考える時に、デジタル化社会への対応というのはもう必須になるのではないかと考えています。情報のところに入るならそれでもいいですが、私自身の所感としては、流行りとかではなく、時代の転換として必要な要素だと思っているので、一つの項目として作って、強く意識して考える必要があると思いました。

【納屋産業連携交流推進課長】

そのとおりだと思います。紙上の問題としては集約するという話もできていいかもしれないですが、そういったデジタル化についての深掘りも出てきていただけると、まとめる立場としてはありがたいと思います。

【松原委員】

東京青年会議所の松原です。資料はすごくわかりやすいなというふうに思っていて、わかりやすくなっているがゆえに、どうなのかなって思うポイントが自分の中にあります。資本の問題、人の問題、消費の問題、これらを集約すると魅力的な事業があるといいよねとか、魅力的な施設があるといいよねとか、そういうところにまとめることもできてしまうのだと思います。これは、企業なのか、もしくは行政として働きかけをしていくのかという話になってくるかと思っています。そのように考えると、また主語はどこかという話で、行政がやるべきこと、企業がやるべきこと、もしくは第三セクターがやるべきことというように主語が3つくらいに分かれると思います。その観点が入ってくると、それぞれが主体的に動いて、世田谷区の経済を発展させるという話に発展していくと思ったので、主体がポイントになってくるのかなというふうに思います。

【長山会長】

ほか、いかがでしょうか。今回、大きな軌道修正する大きな理由としては、産業の活性化と書いているところで、これが条例の一番目の産業の基盤にあたります。新たな視点というのが、創業・起業や働き方、エシカルといったところです。今回はまず、産業の活性化というところをメインに考えて、ペーパーをまとめています。では、産業とは何かというところだと思います。前回、月曜日の会議では、まず既存産業の活性化というところについてフォーカスして、商業課、工業・建設業、農業課の各課長から既存産業の現状と課題についてお話をいただきました。その際にご欠席だった委員、商業のところでは栗山委員、建設業のところでは児玉委員にご意見を伺いたいと思います。まずは、栗山委員に、商業のところを中心に、このフレームワークで考えた場合に、どのようになるのか、いわゆる商店街の問題も含めてご教示いただければと思います。

【栗山委員】

商業のところでお話をすると、既存産業は事業承継が上手く進んでおらず、地域で活動する人間が少しずつ減ってきてしまっています。しかし、この流れは止められないものと思っていますので、商店街のメンバーだけでなく、周りの団体や個人を巻き込んで、商店街のサポーターというようにできないかなと考えています。

また、高齢化で、アイデアがなかなか出なくなってきています。なので、そちらに関してもこういう会議に出席されてるような皆さんなどからいい発想とか、知恵とかアイデアを借りられるような環境を整えていければ、地域の活性化には繋がっていくのではないかと思います。また、このメモの中で言うと、資本とか人とか消費の話をしていただきましたが、ここでどう循環させるか。事業者が増えてくると当然働く人も増えて、消費が増えてと、どんどん太っていくというか、大きくなっていくのにつながっていくのだと思うので、ここがやっぱり一番重要な部分だろうと思っています。そして、その事業者というところで言いますと、近年、地元の商店街に割と若い青年部員が入ってきています。事業承継がうまくいかないという話をさせてもらいましたが、新しい人がその地域で事業を起こして商店街やその地域で活動をしたいという人も増えてきています。そういう意味では内容が変わってきていて、そういう人たちとも一緒にうまく連携活動ができないかなというふうに思っています。そういう人たちの発想は新しいので、意見をいろいろ聞きながら、地元で街づくりに生かしていければいいかなと思っています。商店街は、生活のプラットフォームだと思っていますので、このプラットフォームのベースをうまく使っただけならよりいい方法が増えてくるんじゃないかなと思います。

【長山会長】

今のお話は、とても重要な点がありました。まず人の問題というところで、ここに書かれているのは、企業経営者の立場からの人の問題しか書いてないですね。職人がいない、新卒、転職者を獲得する、シニアの問題、それは企業の経営という点における人の問題です。でも、今のお話では、商店街という、地域のコミュニティを支える人自体が不足していると

いう点です。ですから、人の問題というのは商店街のイベントだとか、そういうものの担い手がなくなっていくって、その手法としてサポーター制度ということがありましたが、起業における人の問題なのか地域コミュニティにおける人の問題なのか少し考えた方が良のかなということだと思います。あとは、その際に、もう一つ重要な視点で、新規参入者をどのように受け入れるかという話があります。それは、若い世代かもしれないし区外からの流入者かもしれないし、新規の創業者もいるかもしれない。こういった新規の参入者をどのように既存の産業として、活力に取り込んでいくかということが、今のご指摘のポイントだったのではないかと思います。つまり、この観点のところには地域経済の活性化で経済の循環を促進と書いていますが、少し論理が飛んでる部分もあるのかもしれないと、最上位の基本計画では、産業連関性を高めましょうということを書いていて、商店街だけではなくて、世田谷の様々な産業が、新しいその産業と連関するような仕組み、それが栗山委員の言うプラットフォームということだと思います。産業と言ってもいろいろあると思いますので、それらの産業をいかに連関させてつなぐかということが大事で、それがプラットフォームという話になっていて、そもそも商店街にはそういったものがあるので、どんどん入り込んでほしいというお話だと思います。次に、建設業について、児玉委員にご説明いただければと思います。

【児玉委員】

第7回の論点メモをいただいていたので、それに基づいて今の建設業の状況、そして方向性についてまとめたいんですが、長いので全部は説明いたしません。そもそも建設業自体が公共工事、インフラ、区民の方が生活をする基盤である住環境を整備する基幹産業であり、一方で災害が発生したときには復旧復興の中心的役割も果たす、いわゆるエッセンシャルワーカー的な業務でありながら意外と区民の方に知られていなくて、その辺りの情報発信をしていかなければいけないと思っています。一方で、先ほどの意識改革の問題でも出ていたんですが、やはり私たち自身、建設業自体が地球温暖化、いわゆる環境問題に取り組んだり、廃棄物処理の問題に対して企業が変わっていかないと、消費者、エンドユーザーから選ばれない。選ばれるような企業になるためには、そういうところに意識改革が必要だと思っています。また、区や行政に後押ししていただきたいということの中には、例えば、今、世田谷区が区民向けにエコ住宅補助金といういわゆる省エネの断熱改修とか、省エネに関して補助をしているのですが、これを区民だけでなく中小企業、区内の商店とか事務所が、環境に配慮した改修工事をする時には補助金をつけるとか、環境問題以外でも、例えば防災対策とかにも補助を拡大していただいて、結果、区にとっても良いし、企業にとっても良いし、建設にとってもいい、そんなような後押しをしていただければと思います。

今、抱えている問題では人手不足、将来の担い手である若い人が入ってこない。また、デジタル化の話が出ましたが、IT化IoT、ICTに全くついていけない中小企業がほとんどです。いろいろな導入補助はあるのですが、導入したところでそれを扱える人がいない。なので、導入も必要ですが、一方でサポートや代行をしていかないと、技術はあるけれど、ITについていけないから仕事ができない、そういう中小企業が、今後、増えていくだろうなと思いま

す。そして、そういうサポートは必要かなというふうに思っています。で、地域内の消費喚起ということですが、もちろん国民一人ひとりもそうですが、世田谷区自体もこれから区の公共施設がどんどん老朽化しています。先日の区の説明でも令和18年までに建て替えをしなければいけない公共施設が100近くあると言われていて、これを区内の建設業者が総力を挙げてやらないととても追いつかない状況になっていますので、地元の業者とタイアップして行くことが結果として世田谷区内のインフラ整備にもつながると思っています。

一例として、公共事業、公共サービスについて説明させていただきます。私ども建防協の中に事業協同組合の団体も入っております。そこでどのような仕事をしているかという、世田谷区の学校の改修工事、そして選挙のポスターを貼る掲示板の設置を実は十年くらい前からこの事業協同組合が随契で受注させていただいています。以前は入札でやっていたので、名古屋とか広島に本社があるイベント会社さんが受注をして設置をしていました。世田谷区は有権者が多いので、区内に897箇所この看板を設置します。衆議院選挙だと3日間ですりつけます。大きい区議、区長選挙になりますと2週間かけて付けます。これを事業協同組合が受注して区内の工務店や建設会社に割り振ります。そして、その事業者さんは当然区内の雇用を使ってこれを設置し、管理をし、撤去する。実際に僕もその管理をやっているのですが、設置してから撤去するまで24時間対応をします。台風が来て倒れた、車がぶつかって壊れた、これを地元の業者だから維持管理できる。広島の業者、名古屋の業者は立てることができけど、維持管理ができない。そういう実態もあります。

一方でこの事業協同組合で、随契でいただいて、結果、適正な利益が出たら数百万円単位で建防協に防災備品を購入して物品として寄付を頂いています。建防協はお金がないので、ほとんど事業協同組合からの寄付で備品等を購入しています。結果として、その防災備品によって区民の安全、安心につながっています。私どもの団体の中にはNPOもあって、NPOはお金がないのですが、実はこの選挙看板の管理業務の一つに写真を撮るという作業があるのですが、これをNPOに委託をしています。そこには女性や高齢の方で現場を離れた方に写真撮影をお願いして、NPOにもお金が回り、結果、NPOが、例えば高齢者住宅の転倒防止器具の設置だったり、高齢者住宅の改修工事などをNPOでやらせていただいている。要は一つの公共事業、公共工事が、地域の事業者にも働く人にも、そして社会貢献にもつながる。一つの実例ですが、このような一つの事業で循環できるような取り組みを、今後のビジョンの中でも取り込めていけたらと思っています。以上です。ありがとうございました。

【長山会長】

やはり先ほどの人の問題のところ、地域の生活をささえる人、それはエッセンシャルワーカーのような形になるかもしれませんが、建設業の現場の人にもこれにあたるということなので、先ほどの商店街のサポーターになるようなコミュニティを支える人もそうだと思いますので、そこを分けて記載いただくといいかと思います。

あとは大石委員も言ったように、やはりデジタル化対応というのは、業界を問わず、地域のインフラの問題にもなっていますので、デジタル化対応がやりやすい制度とか仕組みを自治体としてどう捉えるかを、今回の産業ビジョンに落とし込んでいくのは当然の流れなのだ

ろうと思います。ですので、箱を分けてインフラというところを細分化して書くとうろしいのかと思います。そ

それでは、前回オンラインで聞いていた松原委員にも意見をお聞きできればと思います。

【松原委員】

論点がずれてしまうかもしれないですが、新たな気づきになればということで、お話をさせていただくと、石巻のブランディング、地域を活性化させる取り組みをしています。石巻は水産業と工業が盛んです。世界三大漁場の一つである金華山沖漁場というものがあります。で、そこでは金華さばなどが獲れます。あと日本で一番魚種がとれる石巻漁港があります。ただ、それを実は日本国民が知らないという状況です。それで、それをブランディングしてデジタルマーケティングを使って発信しようという取り組みをしています。僕自身は IT で、デジタルマーケティングとかブランディングをやっている会社なのですが、Yahoo の派生団体の会社として作って一般社団法人化されているフィッシャーマンジャパンという団体が石巻にあります。そこでは、Yahoo に勤めていた人が移住をして、7年ぐらいそこに住みながら、石巻の水産業を支援しています。そこで、魅力的な資源があればそこに人が集まってくるということかなと感じておりました。

では、世田谷区の魅力的なものって何なんだろうっていうことに置き換えて、先ほどいろんな話を聞いていました。世田谷区の魅力的な資源がキーワードとして出てないなあというのが、僕の中で思ってることです。23 区で一番人口がいますとか小学校の数も多いですとか、色々あると思うのですが、一番何が強みなんだろうというのが、分かりません。ただ、いろいろと行政の方と接点を持つ機会がここ数年すごく増えてきてるのですが、実は行政って魅力的だなというふうに思っています。ほかの行政との接点もあるのですが、こんなに積極的に関わってくれるところはないっていう感じです。なので、そこをまず魅力の一つとして出せるとか、産業に対する後援とか支援とかの意思もすごい強いなと思っています。例えば、そういったいろいろなものから派生してキーワードを作ることができるし、いろんな産業の強みとか魅力を全部出して、それをごちゃまぜにすると世田谷区の魅力的な資源が出てきて、そこに人が集まるというようなことがあってもいいのかなと思いました。

【長山会長】

本日は、この事務局作成メモをベースに議論するというので、吉田委員からは意識の問題と情報の問題をまとめていいのではないかという意見、また、田中委員からは意識の問題は個別に設けるべきという意見が出てきました。また、松原委員のおっしゃった情報の問題では、経営情報の問題ということですね。そして、この中身を見ると分かりやすい情報発信ということで行政のことになっています。そこを分かりやすい表記にした方がいいのかなと思います。ただ、それはそれで伴走的にやっという高い評価をされたということだと思います。

今回は、前回の古谷委員からお話のあったお金と人の問題を中心に議論をして、また、事務局として論点を広げました。そして、それをビジョンに落とし込むためにロジックを

組んでいただきました。ですので、ここについてももう少し議論を深められればと思います。
意識の問題はあえて入れた方がいいということですが、田中委員いかがでしょうか。

【田中委員】

意識の問題という項目名をどうしようかというのは悩みどころかもしれないですね。さらに、この会議体も新型コロナがあったからこそその大きな社会の変化の中で、これからの持続可能な地域経済をどうしていくかということが発端だったと思うので、その点でも意識の問題は残す必要があるのではないかと思います。

【長山会長】

今までの議論で納屋課長からなにかありますか。

【納屋産業連携交流推進課長】

この整理につきましては、先日の会議ではお金と人という話でしたが、皆さんの意見を聞いていると、同じレイヤーのところに消費の話とか情報の話があったのではないかとということで、このような整理をさせていただきました。意識の問題の部分については、先日の会議でも千葉委員からお話があったように消費者の意識を変えていく働きかけをしていかなければならない。具体的には我々の広報媒体で、いろんな事業者さんを訪問して記事を書いたりしているのですが、そういった取組みをとおして少しでも知っていただいて、フレンドリーな地域をつくっていくことが必要じゃないかという意識で、この意識の問題は特出しで書かせていただきました。

【大藤委員】

今までの議論の流れと違うところかもしれないんですが、紙に足した方がいいと思うところで言うと、前回その議論に参加させていただいて、その上でいいなって思ったポイントが世田谷ならではの良さみたいなもので産業の価値を高めていったり、世田谷だから働きたくなる、来たくなるということおっしゃっていて、その地域の魅力を高めることで産業を活性化させたり、人を増やしたりするというのがすごくいいなと思いました。現産業ビジョンを見ると、暮らしやすさが世田谷のよさなのかなと思うのですが、それが今回のこれまでの議論では弱くなってしまったのかもしれないと思い、その部分を強くすることでバランスがとれるかもしれないと思いました。

【長山会長】

前回の産業ビジョンの見直しということなので、重要な指摘だったと思います。本日のメモを産業ビジョンに反映させていくときにどの部分を踏襲し、どの部分を上乘せするのか、次回の会議で産業ビジョンの案が出てくると思いますが、そのあたりもこの場でご相談いただけたらと思います。

【納屋産業連携交流推進課長】

現行ビジョンを踏襲するという事はすでに合意を得られていると思いますので、改めてその認識で新たな産業ビジョンを作っていきたいと思えます。

【長山会長】

世田谷らしさとか暮らしの部分のお話がありました、いかがでしょうか。

【納屋産業連携交流推進課長】

今、区役所では、基本計画という最上位の計画を作っております。さらに、その上に、基本構想という20年単位のものがございまして、そこで書かれているのが、職住近接といったことが書かれていまして、世田谷らしさとか暮らしやすさということが薄くなっていたと感じましたので、改めて原点に戻って考えたいと思えます。

【長山会長】

今回、産業ビジョンを見直すのは、基本計画を新しくするというところがございまして、世田谷らしさというのはそこで大いに議論されていて、その基本計画では子どものことがかなり大きく載っています。またエッセンシャルワーカーということと言いますと、医療とか福祉といった産業部門とは別のところで載っています。ですので、田中委員のお話にあった課題出しは、実は基本計画審議会です。この会議では産業部門としてはどうするかというお話でございまして。

産業の視点から世田谷らしさというのを議論するというのは松原委員の指摘のとおりだと思えますので、改めて議論していただくのがよろしいかと存じます。プレゼンで以前、散歩社の小野さんがお話されていたことが印象的だったのですが、消費ということでは、世田谷の消費者は、要求度が高く洗練されている。それは、多様性であったり、富裕層が多かったり、都市であるといったことがあります。そのような中で、それに対応するような産業が世田谷らしい。例えば、高級フルーツの移動販売ですとか、ニッチでも成り立つような産業が世田谷にはある。そういう事業者を支援しているのがSETACOLORです。世田谷らしい事業者さんと吉田委員が3年間にわたってやり取りをしていると思えますので、そのあたりの見解をお話いただけますか。

【吉田(亮)委員】

松原さんがおっしゃったようにその地域に魅力があれば人が集まってくるというのはその通りだと思っていて、世田谷区が一番の魅力は何かというと、そこに住んだらハッピーというなにかがあるということだと思えます。それがなにか一つの明確な観光資源とか自然とかではないけれど、人のつながりとか、暮らしやすさとか。僕の場合だと近くの遊歩道があって、そこをランニングするとすごくきもちがよくて、これ作ってくれた諸先輩方、本当ありがとうございますと思ながら毎日、緑を感じながら走っています。そういういろんなものの積み重ねで住みたいと思わせてくれていることが一番の魅力だなと僕は思っています。そう考えた

ときに育ててほしい産業は、やっぱり世田谷に住んでいる人が楽しいとかハッピーだって思えるコンテンツを提供してくれる産業だと思うし、そういうことにチャレンジしようと思っている事業者の人も多いのだなということを感じます。

あと、もう一つは、住んでいてハッピーだと思う世田谷にいるからこそ、社会課題や地球環境に対するアンテナを張っている方が多く、そういうことをビジネスで解決しようとチャレンジする人が多いのも世田谷らしいと思っています。なので、世田谷区が社会課題とか地球環境に対して一番取り組んでいるプレイヤーが集まっている街であることが、社会に貢献したいと人にとってもまた魅力的な街になるのではないかと考えています。なので、そういった事業者さんが増えるとまた世田谷に住みたいという人が増えてくるのではないかと考えています。

3つは、事業者側というより、支援サポートする側で感じるものがあって、SETCOLORに大藤さんとか、松原さんとか、市川さんにも力を貸してくださっていますが、そういうプロフェッショナルな人たちが住んでいる街ということが、世田谷の良さを下支えしている部分もあると思うので、特定のスキルを持った人たちが集まって、仕事ができる環境、仕事をこの街でしたいと思える環境を整えるということが、3つ目として重要だなと感じております。

【長山会長】

実は、第1回から6回までは世田谷らしさをかなり意識して話をされていて、それが世田谷の強みとか、世田谷の特徴みたいなものをより伸ばそうと思った結果、新たな視点のところに議論がかなり集中していたということです。ソーシャルビジネスやエシカル、アントレプレナーシップなど、新しさを際立たせようとするのと、そういったものになってきます。

ただ、工業とか、建設業とかの既存産業と新しいプレイヤーをどうつなげていくか、連携させていくかが一番の論点だったのだらうと思います。

第7回では、既存の産業を中心に議論をしました。6回まで新たな視点の話をしてしまいましたけど、改めてどうやったらそこがつながるのかというところが論点なのだと思いますし、そのつなげる仕組みを後押しすることが行政に求められるのだと思います。そういった面では、このフレームワークで、産業の活性化という新たな視点がありますが、その観点のところ右側に空白があるので、入れられそうな感じはします。ここまでの議論を踏まえて後藤部長に軌道修正していただければと思います。

【後藤経済産業部長】

まだ上手く整理できていないですが、先ほど松原さんのおっしゃった話がすごく大事な気がしていて、そこと意識の問題と戦略的な情報発信の話とかが追加になればいいのかなと思います。この会議に集まっただき答申を作っただけの意味は、これまでのビジョンに新たにプラスアルファすることで、さらに住みよくしていきたい、そのエキスはなにかということを表示することなのかなと思っています。行政的な視点で言うと、足りてないのが、やっぱり発信。いいことをやっても全然伝わってない。伝わりづらいと言われていることが永遠の課題で、ここはすごく大きい柱なのかなと思っています。なので、戦

略的に見せていくということが、一つの柱としてあって、やること足りないことをしっかりやるということがあります。それと、意識の問題というところが一番響きました。企業も変わらなきゃいけない、行政も変わらなきゃいけないといったときに、形式的でない身を取る行動変容が必要なのではないかと思いました。戦略的な発信と意識の問題をベースに好循環のような要素が入ってくると、これまでの行政にない良いビジョンができるのではないかと思っています。

【長山会長】

今の部長のお話では、議論は収斂して行って、前回の議論の要素を加えれば、完成ではないかということでした。今日のメモのところにありますように、最後に合意を得られればよろしいかなと思います。今日が答申について議論する最後であり、前回と今回の議論をどう答申に盛り込むかということの後藤部長にまとめていただきましたが、方向性として合意いただけるかどうか。最後、順番にご発言いただければと思います。

【吉田(凌)委員】

先ほど大石委員が言ったようなデジタル化とか時代の流れみたいなところをどのように取り込んでいくかというところがすごく大事だと思ったので、その流れみたいなところをどう取り込んでいくかを含めて考えられるといいと思いました。

【長山会長】

今の柱にデジタル対応というのは入れていますか？

【納屋産業連携交流推進課長】

基本的方針1に関して4つの目指す姿があり、その最初の安心して継続的に事業を営むことができる世田谷区の内数として、IT化を進めるための後押しと書かれているのですが、今日の話を知っていると、レイヤーをあげる必要があるのかなと思いました。

【長山会長】

地域ぐるみでのDX環境を整えようという大石委員のお話だったと思います。基本計画の方には入っているので、産業ビジョンでも取り上げないと整合性がとれないと思います。

【大藤委員】

みなさんの繰り返しになりますが、世田谷らしさというものをに入れていただくといいと思います。長山先生が言ってくださったように、昔ながら世田谷らしさと新しい世田谷らしさがあると思うのですが、今回新しい世田谷らしさに寄りすぎていたということなので、昔ながらの世田谷らしさを盛り込んでいくと、バランスが取れるかなと思いました。

【吉田(亮)委員】

資本の問題というのは確か書かれていないなと思いました。やっぱり事業をする上では、

投資をどう引っ張ってくるかとか資金調達をどうするかは大事だなと思っていて世田谷らしい調達の方法とかを産業基盤強化の一つに謳ってほしいなと個人的に思っています。世田谷の事業者がそういう資金調達をやってるんだというものを信金さんとたちと一緒に作る事ができたら、それってほかの自治体でも真似できるようなものになると思いますし、新しい事業の作り方を下支えする大きなインフラになるのではないかと思うので、書ければ書いてほしいなと思います。

【長山会長】

地域としての資金調達のしやすさというものが吉田委員としてはあると思うのですが、そのあたりは盛り込まれていないですよね？

【納屋産業連携交流推進課長】

施策の中で、そういった調達の方法とか寄付のようなことについても検討するという事は書かせていただいています。今の話も先ほどのような話に近いところはあるのかなと思って聞いてました。

【長山会長】

方向性のようなところに書くことはありえるのですか？今のものでは企業経営の資金調達のことだけなので、産業ビジョンとしては狭いかなと思っているのですが。

【納屋産業連携交流推進課長】

答申にはそのように書かせていただこうと思っております。一方で計画の中では、検討の余地があると思っています。

【田中委員】

今、話を聞いて思ったのが、意識が変わるから行動が変わるのだと思います。なので、意識の問題は同じ列にしてよいものなのか疑問に思いました。意識の問題が上で、その他の問題がその下にあるのではないかと思いました。よくアイスバーグの図で示されますが、水面から下の8割くらいが意識だけど、見えてくる行動は水面上しか見えなくて、見えているところしか意識しないのですが、実は見えてない氷山の水面下の意識ってすごく大事だし、それがないと水面から上に出てくるものがない。なので、この意識の問題をどう扱うかもう少し丁寧に扱ったら新しい発信になるのかなと思います

【長山会長】

私の認識では、その意識の問題というのが条例でした。条例とは意思決定の拠り所になるものです。会社でいうところの経営理念です。それぞれの意識を改革していくところでの条例があったと思うので、条例の浸透が本来、意識の問題としてポイントだったと思うのです。だから田中委員がおっしゃるように意識は上位であって、上位は条例であります。

なので、意識を改革するなら条例を浸透させるということになります。

【大石委員】

コロナ禍やウクライナ、パレスチナなどの戦争もあり、ものすごく変化が激しくて、ここ三か月ぐらいでAIが本当にもものすごいスピードで進んでいます。そんな変化の激しい時代に基本ポリシーを決めることは、すごく難しいことだと改めて思いました。次から次へと新しいワードが出てきて、新しいことを取り込んでいかなければならない。そのような状況で、このタイミングで何を盛り込むかすごく難しい問題だと改めて思いました。

サステナブル、持続可能な社会ということの観点で言いますと、栗山委員の話でも児玉委員の話の中でも顔の見えるフェイストゥフェイスで触れ合うというお仕事をすでになさっていて、実はそれはこれからのエシカルだとか、サステナブルというところ、もしくは防災的観点でもすごく重要なことなんですよね。地域の断裂が起きてないというか、サステナブルな社会は新しいように見えて、実は世田谷らしさを追求して行くと、結果的にその問題に対応していけるのではないかなというふうに思うので、対立的な概念じゃなく、実はもともと根っこにあって、適応できる能力があるんだというまとめ方も一つあるんじゃないかと思いました。

私自身、子供もいますけど、私は今、自分の仕事、子供の仕事、貧困の格差を含めて本当にAIに対して脅威だと思っているところがあります。実際に使っているともものすごい勢いでパフォーマンスが上がっているので、もうウェブデザイナーもいないし、イラストレーターもいないし、文書を書く人間、僕たち自身でさえいなくなる可能性があります。それを今このタイミングで、脅威となる論点を入れることが、次世代に継いでいくための責務だと改めて感じました。それがIT化とかデジタル化とかではなくて、人の雇用を奪う、もしくはうまく使えばすごく楽になるということ要素として盛り込んでいくと責任のある文章が残るのではないかと思いました。

【児玉委員】

今日、建設業の課題をお話しましたが、皆さんのお話を聞いていて世田谷らしさだったり、世田谷のいいところは人材だったり起業する方だと感じました。そうすると、やはり今、既存産業の弱いところ、課題を解決できるのは、世田谷でこれから起業したり働こうと思っている方が、既存産業の弱い部分をバックアップしてもらえる大きなビジネスチャンスが、課題の中にいっぱい含まれていて、すでに世田谷区のR60とかでも引退された方を地元の中小企業に単純労働させるのではなくて、高度な知識だったり技能を循環させるみたいな部分が既存産業にもっと組み込まれたりするといいと思いました。今いる年配の中小企業の事業主は、自分が意識を変えられないではなくて、その意識を変えて、自分ができないものはできる人に助けてもらう、それができるのが、世田谷らしさかなと感じました。

【松原委員】

隠岐諸島の海士町とつながりありまして、ないものはないと言って、その中でどういった

魅力があるのかを発信している自治体なのですが、自治体、学校、島民がめちゃくちゃコミュニケーションをとっていらっしゃいます。で、僕も今年から参加させていただいて、コミュニケーション取らせていただいています。この会議は産業ビジョンを作るということが、目的の一つだと思うのですが、時代の変化はスピードが早いので、いかにコミュニケーション量を増やせるかが社会に開かれた行政を作れるかどうかだと思っています。例えば、東京 23 区が一番開かれた行政を作るとか、そういうことに対して、企業側とか区民はどう対応するか、そういったスタンスが見えると、産業は活性化していくのではないかと思います。

【中山(耕)委員】

改めて世田谷区は何がいいのかなと思いますと、93 万人の人口を抱えて、分厚い生活関連産業があるということかと思っています。私どものお客さまを見ていて、ある程度お金を持って自分の夢とかを叶えるための小さなビジネスをやる方も結構いらっしゃって、そういったところが世田谷の特徴なのかなと思います。だから、今回、改めて従来の産業も振り返り、基礎的な議論を深掘りして話し合えて非常に良かったなと思います。そのうえでエシカルとかの議論ができる恵まれた環境にあるということかと思っています。ですので、人がいる産業が少なくとも衰退していないそういうことをうまく生かしていければと思っています。

【見城委員】

私は今日のメモを見ていて気になったのが、暮らしている人の視線みたいなものが観点にあっても良かったのではないかなって思いながら見ていました。基本条例の会議のときも最初、世田谷らしさという話があったとあっていて、そのときに人が魅力だよねという話が出てたなあというのを思い出していました。ここに書かれている人の問題というよりは栗山さんがおっしゃってた人の話になってくると思うのですが、暮らしてる人たちが暮らしやすさを求めるために、そこで働くことを選んでいて、やっぱりつながっていったことだなと思っているので、暮らしている人という視点を置き去りにしがちななと思いました。なので、人の観点が入るだけでも世田谷らしいと言えるのではないかとすごく思いました。

意識の話では、世田谷の人は意識が高いとよく言われます。それは多分、世田谷の魅力だと思います。なので、そういう要素を盛り込むだけでも世田谷の産業はこういう見方をしてるから、こういうように作られているんだよというところが入ってくるのかなと思いました。

【竹内委員】

先ほど部長が発信するというをおっしゃっていましたが、誰が発信するのかという問題があると思います。今回のビジョンでも区民が世田谷のよさを理解して職住近接であったり、域内循環を高めるということが強調されている。そのうえで、区外に向かって世田谷の魅力を発信するのは、誰がやるのだろうかと思います。シティプロモーションということを経済産業のビジョンとして入れるかどうかはありますが、区や第三セクターとしては、世田谷区そのものを区外に宣伝していくということについて考えなければいけないし域外交流

みたいなことを少し入れておかないとドメスティックかなという印象はあります。

【栗山委員】

僕も世田谷の魅力って何だろうと考えていたのですが、観光という観点でいうと特に何もない。ところがそうは言ってもよく足元を見ると何気にあるんですね。等々力溪谷であったり、玉川であったり。僕の地元、北烏山の地域には寺町というものがあって、アド街ック天国で小京都という特集を組んでくれました。関東大震災のときに環七あたりから引っ越してきたというのを聞いたことがあるのですが、魅力とらしさというのはすごく近いんじゃないかなと思っています。地域に魅力があれば人が集まってきて事業が起こって消費が促進されてというサイクルが生まれると思います。じゃあその街の魅力ってなんなのかといったときに商店街の話になってしまうのですが、例えば、駅前の商業エリアから一步奥に入ると閑静な住宅街になっていたりして、非常に住みやすいですよ。鉄道も東西に3路線あり都心へのアクセスもすごく便利だし、エリアが広いですが、人がいっぱいいて賑わいがやっぱりあると思っています。

魅力を発信する人とか、事業者を支援するとかすると人がどんどん集まってくると思うので、そこは一つのポイントなのかなと思います。

【長山会長】

本日の議論をまた改めてまとめて答申に盛り込み、12月18日にお示するという流れにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。基本計画では参加と協働ということが書かれていて、多様な世田谷に関わる人たち、それは区外の人も含めて包摂的に魅力を高めていきたいということになっています。そもそも街というところは、集まったりつながったり、そこで何かアイデアが出たり、そういったことでこのビジョンの中でも、ワクワクという言葉があったと思います。そうすると自ずとこの地域が魅力的になって、外から人が入って来たりします。対外的に発信して行くというのは、情報の問題の中で経営の情報だけでなく、そういう街の情報も行政として出していくということもビジョンの中に入れていいのではないかと思います。

今日は大きな方向性について、まず合意を得られたということで、また答申が出てきましたら詳細の部分については、12月18日にご検討いただければと思います。

最後、事務局の方から連絡があればお願いいたします。

【納屋産業連携交流推進課長】

本日も長時間にわたり大変ありがとうございました。

事務連絡でございますが、本日の会議録は作成の上で確認をさせていただき、ホームページにも掲載をさせていただきたいと思います。

次回ですが、12月18日月曜日18時から予定していますので、よろしく願いいたします。その際には本日までの議論を踏まえた答申の案と新しいビジョンの案を出させて頂きたいと思っています。答申につきましては、修正をして、会長にもご相談をしながら会議の前

には皆様にもメールで一度ご意見をうかがわせていただくという段取りで進めさせて頂きたいと思っております。よろしく願いいたします。

3. 閉会

【長山会長】

それでは、長時間ありがとうございました。第7回追加の世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議はこれにて終了いたします。ありがとうございました。